

# 足摺岬小学校の概要（本校の位置と校区）

## 1 位置

高知県土佐清水市足摺岬579番地1

東経	133°	0′	47″
北緯	33°	43′	18″

## 2 校区

足摺岬小学校は、四国最西南端土佐清水市の突端足摺岬の地にあり、今年度、全校児童数19名（男子8名、女子11名）の極小規模校である。

校区は、松尾（平成16年4月、松尾小学校と統合）と足摺岬の2地区からなる。

足摺半島の西方に位置する松尾地区（天神・上前・下前・臼碔の4集落）、足摺岬地区（赤碔・岬・上前・下前・浜・西川・灘・大戸の8集落）には、世帯数約500世帯、人口約900人が、生活を営んでいる。（2021.3.31現在）

ここ足摺岬は、気候は温暖で1年を通してほとんど霜を見ることはなく、亜熱帯植物が繁茂し、リアス式海岸が複雑に出入りしている地形は、花崗岩の海岸美と相まって、風光明媚な足摺宇和海国立公園の中心的な観光地である。

四国霊場三十八番札所の金剛福寺には、年間を通してお遍路さんの姿が絶えることなく、北側の山の台地には、唐人駄馬遺跡や唐人石などの巨石群があり、自然豊かな景色と歴史の謎やロマンに触れることができる場所となっている。更に、高知近代和風建築の傑作と言われる国の指定文化財（H11.5.13）である『吉福邸』や、臼碔の磯釣り、松尾天満宮の国指定文化財（T10.3.3）で天然記念物のアコウの大樹等も脚光を浴びるようになった。

地場産業としては、古くから清水九浦の鰹節作りで知られる「なや」や大敷網、鰯の餌付け釣り、亀おこし等の菓子も生産されている。

住民は、沿岸漁業関係や土木・建築関係の仕事に従事する他、節納屋、ホテルや旅館、民宿等の施設で働くなどしている。

生活道である県道27号足摺岬公園線も、窪津経由の東回り線と併せて、西回り線の大浜経由「松尾トンネル」（全長1057メートル）が平成28年3月に開通、市街地から足摺岬まで完全二車線となり、大型バスも走行できることから観光や人的交流に大きな期待がかかっている。

ここ松尾・足摺地区でも少子・高齢化が深刻化しており、平成25年4月には、足摺岬中学校が清水中学校に統合となるなど、年々、児童数が減少している。こうした現状を踏まえたうえで、本校は、足摺岬保育園や清水中学校との連携はもとより、地域の特性を踏まえ、地区祭りでの舟唄等による伝統文化の継承やボランティア清掃など、PTA、女性の会、老人クラブ、足摺・松尾子どもを守る会等による支援や相互の交流を続けながら、今後も、小規模校の利点を生かした足摺岬小学校ならではの特色ある教育活動を展開していきたい。

# 学校経営の概要

## 1. 基本方針

日本国憲法、教育基本法、関係法規・規則、学習指導要領並びに高知県教育委員会・土佐清水市教育委員会の教育振興基本計画及び教育行政方針に則り、人間尊重の理念を基調とし公教育の本質に立ち、21世紀の担い手として知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成に努める。

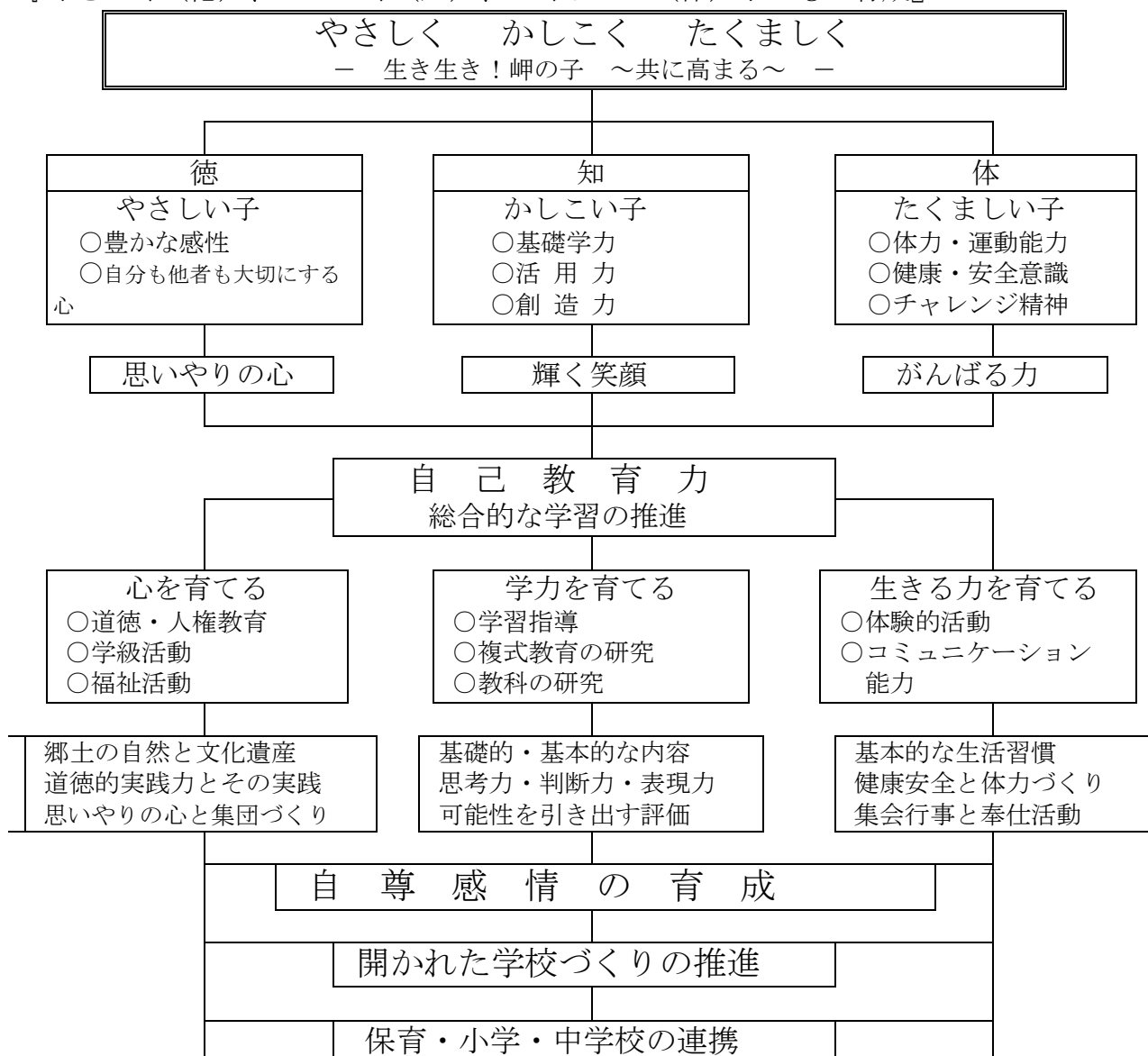
## 2. 学校経営理念

『つながり ～みんなが みんなにやさしい足摺岬小学校づくり～』

- 強みを伸ばす学校。
- 鍛えて伸ばす学校。
- みんなで伸ばす学校。

## 3. 教育目標

『やさしく（徳）、かしこく（知）、たくましく（体）子どもの育成』



#### 4. めざす子ども像

- ①よく考え、進んで学習する子ども
- ②思いやりがあり、助け合いのできる子ども
- ③ねばり強く、最後までやりぬく子ども
- ④健康で明るく、働くことに喜びを持つ子ども
- ⑤故郷を愛し、誇りに思う子ども

#### 5. めざす教職員像

- ①一人ひとりの子どもをよく理解し、それぞれの個性を伸ばせる教職員
- ②感性豊かで人間的魅力のある教職員
- ③教職員としての誇りと情熱を持ち、自らの実践を問い直す教職員
- ④研修に励み、指導力の向上に努める教職員
- ⑤組織の一員として、協力し合い高まり合う教職員

#### 6. めざす学校像

- ①子どもが笑顔で登下校する学校
- ②子どもを安心して預けられる学校
- ③着実に学習成果を上げる学校
- ④明るく活気があり、働きがいのある学校
- ⑤地域に開いた学校

#### 7. 学校経営の基本方針

- ①学習指導要領の趣旨にそった教育課程の編成と、公教育の果たすべき役割を認識した学校づくりを推進する。
- ②教育者としての自覚を持ち、全教職員が一体となって教育目標の達成に努める。
- ③一人ひとりの子どもをよく見極め、個性や能力に応じた教育を推進する。
- ④家庭や地域との連携を密にし、地域に根ざした学校づくりに努める。
- ⑤指導法の工夫改善と一時間一時間の授業の質の向上を図る。
- ⑥教育環境を整え、明るく協調性のある職場集団をつくる。

#### 8. 本年度の重点目標・指導の方策

- ①複式授業改善を中核とした学力向上P D C Aサイクルの確立
  - ・「複式授業のスタンダード」の実践と検証に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた複式授業改善を図る。
- ②一人ひとりの児童の課題に合わせた基礎学力の充実
  - ・算数科を中心とした複式授業づくり研究に努める。（「複式授業スタンダード」の確立）

③学習の土台としての基本的生活習慣の育成

- ・基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、排便など）の確立をめざし、家庭と連携して、継続した取組を行う。

④仲間意識や自尊感情をはぐくむ教育の充実

- ・個々や全校での作品づくりを通して、仲間と協力すること（協働）の大切さや達成感を実感することで、自己有用感を含む自尊感情や自己肯定感を育む。

⑤ふるさと学習の充実

- ・総合的な学習の時間や学校行事等を通じ、児童が故郷のことを知り、誇りに思う心をはぐくみ、地域の活性化のために貢献する実践力を育む。

⑥人権教育、特別支援教育の充実

- ・子どもたち一人ひとりが大切にされる学校づくりに取り組む。
- ・自尊感情を持ち、互いの違いを尊重する態度を育む。
- ・特別な配慮の必要な児童について、適切な支援の在り方を校内支援会等で検討する。

⑦健康・安全教育の充実

- ・命を大切にする学習の充実を図る。（南海地震への備え～防災学習、避難訓練の実施）
- ・食育の推進による健康な「心と体」を育む。（食生活改善推進委員等との連携）
- ・体育授業の充実と技能及び体力を向上させる。
- ・保健指導、保健学習の充実を図る。
- ・交通安全意識の向上と安全に関する指導を徹底する。

⑧保・小・中、家庭・地域との連携

- ・学校通信、学級通信、ほけんだよりを活用し、情報を発信する。
- ・学校運営協議会を中核に据え、小中連絡会、足摺会、足摺・松尾子どもを守る会等との連携を強化する。
- ・生活・総合的な学習の時間や、学校行事等において地域の方々との交流の充実を図る。